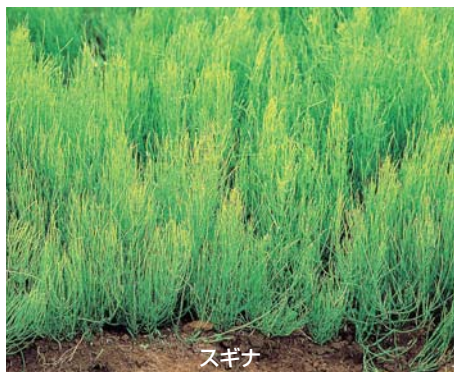


巨大な地下茎から、しつこく生える「スギナ」。 だから、防除はバスタで根気よく続けましょう。



スギナ

スギナの根茎は、地下30～40cmで水平に広がり、縦には深さ1m

の報告があります。スギナは、孢子、根茎、塊茎の3種類の繁殖器官で増えます。特に地下の根茎は増殖力が強く、3月中旬から10月中旬の7か月間で総重量は33～37倍、長さは165～182倍になるとの報告があります。

次々と地上に生えてくる

「早」春を代表する植物として、その姿を愛される「つくし」。しかし、その後に生えてくる「スギナ」は、多くの人を悩ませます。「地上部を枯らしても、また土の中から生えてくる」そんなスギナの特性的ため、防除が難しいからです。

スギナの防除ポイント

- スギナも100倍で、経済的に防除。
- スギナの地上部を完全に枯らし、地下茎を弱らせて増殖を抑制。
- ポイントは**早めの散布**で地上部を育てないこと。

また増やしてしまうので根気よく防除を続けましょう。

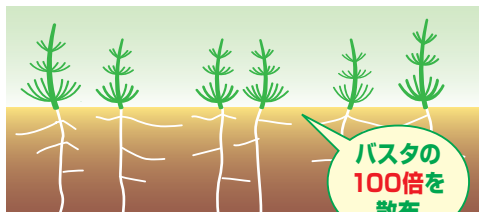
4月～11月頃まで発生するスギナの防除ポイントは、地上のスギナを巨枯らしても安心しないこと。生えてくるたびに根気よく枯らし、地下本体への養分供給を断ち、弱らせていきます。

出てくるたびに根気よく

も伸びます。また、塊茎も増殖力が旺盛で、長く伸びた根茎にくっついて出来ます。この根茎や塊茎から、地上に次々とスギナが生えてくるのです。

ポイント 1

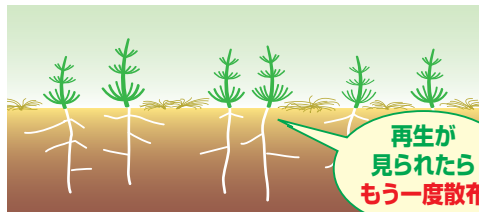
春先、スギナが出そろったらなるべく早い時期（草丈20～30cm）にバスタを100倍で散布してください。



バスタの100倍を散布

ポイント 2

その後、再生が見られたらもう一度散布。地下茎を大きくしないことが大切。地下茎が小さいうちに、早めの防除を。



再生が見られたらもう一度散布

ポイント 3

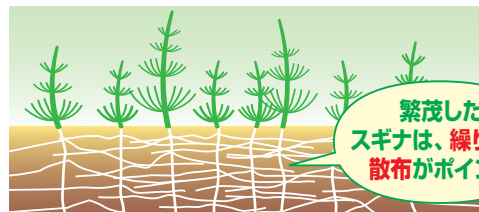
スギナは、地下茎が広範囲に伸び、つながっています。まわりのスギナも忘れずに防除しましょう。



まわりのスギナも忘れずに防除

ポイント 4

スギナがすでに繁茂している場合は、繰り返し散布してスギナの地下茎を弱らせることが大切です。



繁茂したスギナは、繰り返し散布がポイント

特集

この作物に登録アリ!

びわ

昔から民間療薬として親しまれてきた「びわ」。 雑草防除に悩む前に、バスタで処理を!



びわ

びわは、バラ科ビワ属の常緑高木です。中国が原産地で、日本には古代に持ち込まれたと考えられています。しかし、日本での栽培が本格化したのは江戸時代後期から。当時、果実は小玉で、現在のような大玉は江戸時代末期に中国から導入されたようです。

びわは、年平均気温が15度以上で、冬の最低気温が零下5度以上の地域が栽培に適しているため、日本での栽培は西南暖地に限られています。日本の主な産地は、長崎、千葉、香川県で、初夏に多く出回ります。

びわの栄養と効能

びわは、昔から民間療薬として親しまれています。びわに多く含まれているカロチンは体内でビタミンAに変換され、粘膜や消化器官などを正常に保つ働きがあります。そのため、高血圧の予防をはじめ、がん予防やアンチエイジングにも効果があるといわれています。

また、びわは果実だけでなく葉

バスタはびわにも登録があります。一年生雑草および多年生雑草の生育期、収穫期21日前までに雑草に薬液がしっかりとかかるように散布してください。

■バスタの登録内容(2013年4月現在)

| 作物名 | 適用雑草名 | 使用時期* | 10アールあたり 使用量(mL) | 総使用回数** |
|-----|-------|----------------------------|---------------------|---------|
| びわ | 一年生雑草 | 21日 (雑草生育期 草丈30cm以下) | 300~500 | 3回 |
| | 多年生雑草 | | 500~750 | |

【使い方】希釈水量10アール当たり100~150ℓを雑草茎葉散布
*印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数を示します。
**印はグルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数の制限を示します。

にも効用があります。アミグダリンという物質が含まれているため、葉を煎じて飲むと、咳止めやがんの予防にも効果があります。

REPORT



バスタ散布による電柵周辺での散布



日本各地のバスタ情報 ~ 九州編 ~

レポーター：バイエルクロップサイエンス(株) 九州営業所 佐賀県担当 **塩崎 佳乃**

佐賀県の中山間地ではイノシシなどの鳥獣によって大きな作物被害を受けています。その被害額はなんと年間約3億円。イノシシの隠れ場所をなくしたり、電気柵やワイヤーメッシュで田畑を囲って侵入を防いだり、鳥獣害対策に取り組んでいます。重要なのは、電柵の漏電を防ぐ雑草管理です。周辺にはスギナやツユクサ、メヒシバ等の多様な雑草が生育し、特に中山間地では水稻栽培期間中5~6回と、こまめに草刈り機で畦の草刈りをされていると聞きました。そこで電柵周辺で、バスタ200倍散布の展示試験を行いました。バスタは傾斜地を崩す心配なく雑草を枯らせると、評判を得てバスタの使用が広がっています。電柵を設置した後も安心して使用でき、草刈りをするより長期間雑草を抑草できるので、省力化につながります。さらに色々な場面で中山間地の雑草管理のお役に立てるよう活動して参ります。

大切な作物のそばに。



バイエルクロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00,13:00~17:00 土・日・祝日を除く

詳しくはバスタの情報サイトへ
www.basta.jp/

(F-3101 13.04.IS)